



## スキーとの出会いから 準指導員合格までの私記

苦 小 牧 永 井 信

私が始めてスキー板をはいたのは、大学一年生の時に行われたスキー実習でした。関西方面の大学でしたが、「北海道出身やからスキー上手いんちゃうん？」北海道出身＝スキー得意と言う都市伝説のような問いかけに対して、「北海道でも雪の多い地域と少ない地域があって苦小牧はアイスホッケーが盛んで・・・云々」といった説明を言い訳がましく何度もしていた覚えがあります。そんな説明が一々面倒だった事と、何よりスキーの楽しさに見せられ、大学2年生（平成3年3月）の時に初めての検定で2級を取得しました。

卒業後、北海道で就職してからも20代後半までは、週末にたまに滑ったりとレジャースキーを楽しんでいましたが、カービングスキーへの移り変わりと共にスキー場から足が遠のき、十数年が経過した頃、現在の職場に異動して出会った佐々木さん（苦小牧スキー連盟理事長）から「ニセコ泊スキー」のお誘いを頂きました。10年以上滑っていないので「ご遠慮します」的オーラを全身にまもっていたはずですが、半ば業務命令的な誘いを断りきれなかったと言うのが本音でした。（笑・・・）

・・・が、久しぶりのゲレンデはとても新鮮で、外向傾全開でしたがとても気持ちよく滑る（転ぶ）ことが出来ました。

「未だ何とか滑れるな・・・」との勘違いから、その翌シーズン物置の奥から古い道具を引っ張り出し、セール品のウェア一式と渡辺一樹監修「スキー思い通りに美しく滑る」を購入。

添付のDVDをお手本に、40歳からの出戻りスキーヤーとなった訳です。

2級取得からちょうど20年後の平成23年3

月、憧れの一級に合格。目標を達成した満足感の一方で「もっと上手になりたい」という漠然とした欲求に動かされ、「指導者としてスキーの普及・振興を・・・」などという大義は欠片もないまま、苦小牧スキー連盟主催の「指導員・準指導員養成講習会」開講式の席に座っていました。スキー教室に参加する程度の軽い気持ちで出席した私にとっては、想定外の体育会系の雰囲気と若干の後悔（汗）。

いざ講習が始まると、谷回り？二軸運動？内脚主導？・・・外脚荷重や外向傾と教わってきた私にとっては、今までの滑り方を全てリセットしなければならない抵抗感と、今から変えて検定に間に合うのかという焦りを感じながらの講習でした。そして迎えた実技検定の前日、ほとんど練習してこなかった不整地小回りを練習したところ、ド派手にコケて顔面を強打。

大回りも前日練習で雪煙と共に豪快に転倒。

当然の事ながら本番では、かなり慎重に横滑りを多用した「粗野な (crude)」ターンで滑降。

このような状態で終えた検定だったので、発表までかなり不安でしたが、何とか合格の判定を頂くことが出来ました。

山あり、谷あり、猛吹雪もありながら合格できたのは、理論から実技まで長期間に渡り、根気よくお付き合いくださいました講師の先生方のご指導の賜です。心から感謝申し上げます。

また、合同練習でご一緒し、検定時にも気にかけて行動を共にしていただいた稚内チームの皆様、大変な励みと刺激になりました。また一緒に滑りましょう。最後に、検定終了後、開放感に浸りながら滑った中斜面は最高に気持ちよかったなあ・・・。